

### 三匹のやぎ ノルウエー

昔<sup>むかし</sup>むかし、あるところに、ブルーセという名前の、三匹<sup>びき</sup>のやぎがいました。ちびやぎのブルーセと、まんなかやぎのブルーセと、大きいやぎのブルーセです。

あるとき、やぎたちは、お腹<sup>なか</sup>いっぱい草を食べて太って来ようと思って、山へ出かけて行きました。

山へ行くとき、大きな谷川があつて、橋<sup>はし</sup>をわたらなくてはなりません。ところが、橋の下には、ものすごいトル<sup>\*</sup>がすんでいました。

初<sup>はじ</sup>めに、一番小さいちびやぎのブルーセが、橋をトントンわたって行きました。

すると、橋の下から、トルがどなりました。

「だれだ。おれさまの橋をわたっているのは！」

「ちびやぎのブルーセだよ。山へ行つて、太って来ようと思<sup>う</sup>んだ」と、ちびやぎのブルーセは、かわいい声でいいました。

「ようし。じゃあ、つかまえて食<sup>く</sup>つてやる」

「ぼくは、まだ小さいんだもの、つかまえないでよ。少し待<sup>ま</sup>つてると、まんなかやぎのブルーセが来るよ。ぼくなんかより、ずっと大きいよ」

ちびやぎのブルーセがそういうと、トルは、

「よしよし」といいました。

そこで、ちびやぎのブルーセは、橋をわたって行<sup>い</sup>つてしまいました。

しばらくすると、まんなかやぎのブルーセが、橋をミシリミシリとわたって来<sup>き</sup>ました。

トルがどなりました。

「だれだ。おれさまの橋をわたっているのは！」

「まんなかやぎのブルーセだよ。山へ行つて、太<sup>ふ</sup>つて来るんだ」と、まんなかやぎのブルーセは、元気にいいました。あんまりかわいくありませんでした。

「ようし。じゃあ、つかまえて食<sup>く</sup>つてやる」

「いや、待<sup>ま</sup>つておくれよ。もう少しすると、大きいやぎのブルーセが来るよ。あいつは、ぼくなんかより、ずっと大きいよ」

まんなかやぎのブルーセがそういうと、トルは、

「そうか、よしよし」といいました。

そこで、まんなかやぎのブルーセは、橋をわたって行ってしまいました。

まもなく、大きいやぎのブルーセが、橋をズシンズシンとわたって来ました。あんまり重たいので、橋がミシミシいいました。

トロルがすごい声でどなりました。

「だれだ。おれさまの橋をわたっているのは！」

「大きいやぎのブルーセさまだ」と、大きいやぎのブルーセは、太い声でいいました。

「ようし。じゃあ、とつかまえて食ってやる」

トロルは、どなって、橋の下から飛び出して来ました。

大きいやぎのブルーセは、いいました。

さあ、来い

ぼくには、角がふたつある

おまえの目玉をつきさすぞ

大きなけづめもふたつある

おまえの足なんかひとくじき

大きいやぎのブルーセは、トロルに飛びかかり、目玉をつきさして、足でさんざんけ飛ばしました。トロルは、川に落ちて死んでしまいました。

三匹のやぎは、山へ行って、草をお腹いっぱい食べました。ところが、あんまりたくさん食べたので、動けなくなってしまうました。もしそのままやせていなかったなら、今でもまだ山の上にいるはずです。

\*スニップ、スナップ、スヌート

これではなしはおしまい

原話…『北欧の民話』山室静著／岩崎美術社  
再話…村上郁